

- 1 教育事業名 「読書まつり in とかしき」
- 2 ねらい 青少年に読書活動を始めるきっかけを提供することを目的とする。また、渡嘉敷島には図書館や書店がないため、大人も本に触れる機会は少ない。そのため、渡嘉敷島全島民参加型とし、島全体で読書を促進する機会とする。
- 3 期 日 令和5年12月8日（金）～12月9日（土）
- 4 場 所 12月8日（金）：渡嘉敷村立とかしき保育所及び渡嘉敷村立幼稚園
12月9日（土）：渡嘉敷村立中央公民館
- 5 募集定員 渡嘉敷村在住の幼児、児童、生徒、保護者、地域住民 60名程度
- 6 参加人数 64名
- 7 参加者内訳 未就学児29名（男子16名 女子13名）小学生7名（男子4名 女子3名）
保護者及び地域住民 28名（男性6名、女性22名）
- 8 講師 松浦 佑司氏（絵本専門士）

9 実施プログラム

12/8 (金)		10:00	11:30	12:30	13:00	14:45	15:30	16:45	17:00		
		フェリー乗船	屋食	移動・準備	読み聞かせ① (幼稚園)	休憩・準備	読み聞かせ② (保育園)	移動	本館宿泊		
12/9 (土)	8:30	9:30	10:00	10:30	11:00	11:20	12:00	13:00	13:30	14:30	15:30
	移動	読み聞かせ③ (テーマ：食べ物)	休憩・準備	読み聞かせ④ (対象：0～2歳児)	休憩・準備	保護者・指導者向け講演会 ・ワークショップ	屋食	休憩・準備	読み聞かせ⑤ (対象：小学校高学年～大人)	乗船準備	フェリー乗船

※色がついていない場所は講師のみの動向である
※12/9(土)のプログラムはすべて渡嘉敷村立中央公民館で行う

10 事業の様子



読み聞かせ（幼稚園）



体現遊び（幼稚園）



読み聞かせ（保育所）



体現遊び（保育所）



読み聞かせ（公民館）



保護者・指導者向け講演会



ワークショップ（びりびりアート）



ワークショップ（絵本作り）



島民おすすめ本紹介コーナー

11 エピソード（参加者の声）

① 「読み聞かせ」について

- ・保育所児向けの絵本をたくさん紹介してくださり、楽しい時間でした。
- ・子どもへ読み聞かせするのに、どんな本に興味を持つのか知りたかったのでいい機会になりました。
- ・各回で紹介される絵本1冊1冊、とても興味深く、話し手の話し方に引き込まれてしまいました。
- ・長い時間子どもたちが集中するくらい絵本の世界に引き込まれて、とてもいい機会になりました。

② 「保護者・指導者向けの講演会」について

- ・絵本を通して子どもとのかかわり方、そこから育つもの、絵本の見せ方、聞かせ方を知れました。
- ・松浦先生の読み聞かせ方はとても参考になります。

③ 「ワークショップ」について

- ・子どもがとても喜んでいました。
- ・その後、幼稚園でも同じことをやるくらい気に入っていました。

④ 「おすすめ本紹介コーナー」について

- ・自分では中々手に取らないものも手に取る機会になって、ついつい見入ってしまいました。
- ・まだまだ知らない本がたくさんあって面白かったです。

12 事業の成果

(1) 成果

- ・大人向けの読み聞かせもあったため、未就学児から大人まで幅広い年代の方に来ていただけた。
- ・子ども達の年代に合わせた絵本や、読み聞かせを行う際のいろいろな技術を、保育士や幼稚園の教諭、保護者等に紹介することができた。
- ・体を動かしながら絵本を楽しむ“体現遊び”を交えながらの読み聞かせを行ったことで、子どもたちが飽きずに長く集中して楽しめた様子だった。
- ・保護者・指導者向けの講演会では、絵本専門士の方から読み聞かせの大切さについて話していただく貴重な機会となり、読書活動を促進することができた。また、ワークショップを同時開催することで、子どもたちが楽しくその時間を過ごせた。
- ・島民の方へおすすめ本を紹介してもらいコーナーを設けたことで、事業前から渡嘉敷島の島民を多く巻き込んだ事業となった。

(2) 課題

- ・事業開催日に島外に出ている村民が多く、行きたいが、参加できないという方が多かった。開催日を確認するとともに、継続的な読書活動を促すために、当事業を定期的で開催する必要があると感じた。
- ・事業当日、小学生や中学生の参加が少なく、読書をする機会がだんだん少なくなっている年代でもあるため、来年度以降は渡嘉敷小中学校、阿波連小学校にも読み聞かせを行うことを検討する。